

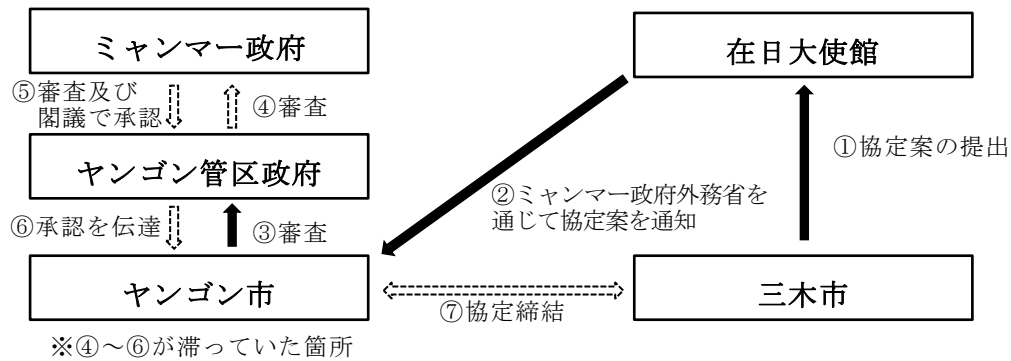
## 三木市長のミャンマー連邦共和国再訪問の結果について

三木市長がミャンマー連邦共和国を訪問し、関係行政機関等と面談した結果および今後のヤンゴン市との友好都市協定の締結に向けた進め方は次のとおりです。

### 1 協定締結遅延の理由

このたび、ミャンマー政府外務省を訪問したことにより、ヤンゴン管区政府からミャンマー政府への協定書の進達が何らかの理由により滞ったままになっていたことが判明。

【参考】協定締結までのフロー図



### 2 締結における相手方の見解

#### (1) ミャンマー政府の見解

下院外交委員長フラ・ミン・ウー氏や、外務省政治局長サン・ルウィン氏との面談の結果、これからの両国の発展のためにも、自治体同士の交流は好ましいものであり、進めていただくのは大変有意義なことである。

政府としては、ヤンゴン市からの書類がヤンゴン管区政府を通じて進達があれば、閣議にかけて認めていきたい。

#### (2) ヤンゴン市長の見解

先立って、7月4日の「日本・メコン地域諸国首脳会議」にテイン・セイン大統領が訪日。

ヤンゴン市長（元駐日大使）も同行し、京都にて京都市長などと会談。

三木市からの申し出に先立つこと約1年前にヤンゴン市との協定締結を提案していた京都市長より、パートナーシティー連携について直接話しをされ、そのことがきっかけとなり京都市とヤンゴン市との間で協議が再開。

外交上のルールからしても、先に申し入れのあった京都市との締結を先行することが筋と考え、三木市との締結はその後にして欲しい。

### 3 今後の進め方

- ①京都市との締結後となれば、本年11月8日に5年ぶりにミャンマーで実施される国会議員総選挙後のやり取りとなることが懸念される。
- ②このことから、三木市としては京都市とともに、ヤンゴン市やボトルネックとなっていたヤンゴン管区政府と交渉し、ヤンゴン市長の来日を促すことができるよう京都市との調整を進める。
- ③三木市としては、このたびの協定を機に、
  - (ア) 友好推進顧問を現地に置いている有利性を活かし、金物などの産業を軸とした路線での展開
  - (イ) 併せて、市内にある関西国際大学がヤンゴン大学との協定を締結したことを受け、留学生の受入れ
  - (ウ) E P A（経済連携協定）においてミャンマーとの間でも認められた介護職や看護師の実務研修生の受入れを現実のものとしていく。
- ④なお、今回はヤンゴン市長からの申し出により、在日大使館を経由せずヤンゴン市へ直接協定案を提出することとし、期間の短縮が図れる。